

(?) 東京都立府中青年の家 西村 美東士

「この指とすれ」の太いなる^{あき}屋 おめでとうございます。「この指」は、何回も、東京都の青年の家を利用していますね。青年の家についてどう思いますか。

東京都は青年の家をセツ持っています。みなさんの近くにある青年館や公民館とは、次の二点を異なります。1、宿泊ができる＝維持管理の為の予算規模が大きく、区市町村段階では維持しにくい、2、広域的事業を行なう＝区市町村のエリアを超えた青年の交流などと援助する。

59年、当時の週休制の一般化による、勤労青年の急増大という状況のなかで、国は余暇対策(余暇善用の一環)として国立青年の家第一号を御殿場にオープン^{した}。そこでの教育方法は「団体宿泊訓練」でした。同年、東京都も青年の家の第一号を八王子にオープン^{した}(今の八王子青年の家)。しかしそこには「訓練」という考え方はなく、また、例えば国技場などもしていません。設立の当初から、国立型の青年の家と異う性格のある程度はもっていたと言えるでしょう。

とは言え、やはり「お役所」のやること、どうももう一歩青年の気持ちにピッタリなところがあるようです。青年の^{あり}声^を聞かずに60年代の青年の家が、どんどん建てられました。青年や市民の要求があつて建てられたのは、70年の水元青年の家です。大まかに言えば、東京都の青年の家は、青年とのつながりが非常に弱いと言えます。

その証拠に、あなたは、私たち青年の家専門職員(社会教育主事(補))の存在を知っていますか。そして78年度、各所1名ずつ定員削減を受けることを御存知ですか。今年から試行されている宿直廃止も関係しているのでしょうか。しかし、青年の家をより良くしていきたいと考える私たちにとっては大変なショックです。早番、遅番のローテーションがきつくなり、やりたい仕事ができなくなるからです。

しかし、青年が、そういう状況にある青年の家に対して、ほとんど要求をぶつけてこない、あるいは、要求を持っていないというのはどういう理由でしょうか。各サークルにとっては、死活の問題として定例会の場の条件があります。かに^{せい}反^{はん}一年に何度も、台宿で使うぐらいの青年の家については、それほど死活の問題ではありません。ここに、青年が青年の家に対して要求をぶつけない、したがってつながりも作りにくいという原因があります。もちろん、私たち職員の主体的役割についても反省すべき点はあると思いますが、

しかし、宿泊可能な施設は、サークル内の人間的つながりにとっては、本当は非常に、

有利な施設と言えないでしょうか。せいぜい週に一度、2時間から3時間くらいづつ会う
だけでは、心の底からお互いを理解しあうのは難しくありませんか。風呂にいっしょに
入って、お湯につかりながら話をする、寝床に入って、ボソボソ話をする、そんな共同生
活の中に、仲間のすばらしい人間性を感じることができるとは思いませんか。

さらに、「この指」のように、広域にわたる青年サークルの交流を援助するのは、東京都
の大きな役割の一つです。また、そのように遠くから集う場合、宿泊機能をもった施設で
ないと十分な交流は困難です。このような意味でも、青年の家は適切な施設です。

このような大切な役割は、いま十分に生かされてはいません。問題は、こまかく言えば
たくさんあります。門限、活動時間、複雑な手続き、禁酒、など、みなさんもすぐ思いあ
たることでしょう。職員から言えば、自由にした場合の事故の問題や、労働条件の問題が気
になります。ひどい利用団体になると、職員を真夜中、たたき起こして、平気な顔で入っ
てきたり、夜中、宴会をやったとばかりの部屋の人の眠る権利を侵害したりすることもあり
ます。不自由な規則を変えさせようとするのではなく、何とかたましすかし、あるいは、
なじみで、規則破りを貫徹しようとするところが多いようです。自らのクルースサークル
活動を変える情熱は理解できますが、不自由な規則の改善を要求してくる正義感、一年
のうちで多くて、二・三人だというのは、淋しい気持がします。もちろん、それは、青年
に対する青年の家の姿勢(青年が不満をぶつけない)にも反省すべき点があると思いま
すが……。いずれにせよ、青年と、青年の家職員とは、すれ違いの状態のようですね。

73年、狭山青年の家の「三多摩青年サークル交流会」の中で「三多摩サークル連絡協
議会」(三サ連)が結成されました。その時、青年たちは、東京都教育庁社会教育部に対して
青年の家の無料化や、施設増設、青年の手による自主的な運営、専門職員の配置などの「
要請文」を出し、ある程度の回答を得ています。現在は、その回答よりもはるかに後退し
た状況にあります。「この指とまれ」が東京の青年サークルの要求を反映し、東京都の社
会教育行政をよりよいものにしていくよう活躍されるよう期待する意味が、御理解いただ
けると思っています。そして青年の家も、広域の青年とつながりを持ち、青年サークルの交流
と連絡を援助できるよう、がんばっていかうと思っています。